

# 報恩講のご案内

## 報恩講

令和6年10月27日(日)  
午前11時・午後1時30分

ご法話「二河白道に学ぶ」

相愛大学学長・如来寺住職  
釋 徹宗 先生

御門信徒の皆様へ

謹啓 虫の音にふさわしい涼しい夜が、ようやくやって参りましたね。あの長く暑い日々が去って本当に秋の到来となるのでしょうか。ちょっと疑心暗鬼。

身体を悪くされた方もあると思いますが、年々短くなる傾向が否めない、やさしく穏やかな季節に、どうぞ身も心もゆっくりやすめて下さい。

「二河白道」という言葉をご存じの方、お話をご存じの方あると存じますが、この度の釋先生のご法話を聴聞させて頂く助けにと思い、西蓮寺様 HP から「二河白道の喩え」を掲載しております。一度お目通し下さい。

尚、同封の返信用葉書は10月18日(金)までに到着するようお出し下さい。よろしくお願い致します。 合掌



## 二河白道の喩え

7世紀中国の高名な学僧に、善導大師(正信偈・善導獨明佛正意)という方がおられました。善導大師は、「信心」を守護するためにこの喩えを説かれたと言われてています。

浄土真宗の教えの核心であります信心とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲のお心である南無阿弥陀仏が私の中ではたらいてくださっている、迷いの人生を送っている私を何とかしなければならぬという阿弥陀如来の願い・喚び声が私にとどいていると気が付くことだと言われてています。

信心ということ私たちが保っていくのは、非常に難しい。その信心を保つことの難しさを説くために、この喩えが述べられています。

善導大師を敬われ、その教えをととても大切にされた親鸞聖人は、主著『教行信証・信巻』において、以下のようにこの喩えを詳しく引用しておられます。

一人の人が荒野をさまよい始めていました。広い野原を西に向かっていきますと、突然後ろから盗賊とか怖い獣とかが追いかけてきます。必死で逃げながら正面を見たら、北側に河の水がとうとうと流れています。南側には火の河が流れているのです。それぞれに幅が百歩の深くて底がな

い果てしない河です。どうしようと迷っても、盗賊や獣が来ているわけですから後ろにはさがれません。北は水が激しく流れ、南は火が盛んに燃え上がっている。後ろにも前にも行けない。そのとき、よく見ると、その火と水の間を四、五寸（12～15センチ）くらいの細い白い道が見えました。その道を通りたいと思ったのですが、何しろ細い道です。しかも常に波がその道に打ち寄せています。

進むことも退くこともできないという状況の中で、突然声が聞こえて来ました。その声は、東の岸より勧める声。西の岸より招き喚ぶ声というふうに表現されています。東の岸とは迷いの娑婆世界を、西の岸とは悟りの極楽世界を表しています。

東の岸にいる人に「きみただ決定(けつじょう)してこの道を尋ねて行け、かならず死の難なけん」、死ぬことはないから行きなさい、という声が聞こえてきた。そなたは戸惑うことなく躊躇することなく、ただこの道をたどって行け、決して死ぬことはない「進みなさい」という声です。これはお釈迦様の、発遣(はっけん・差し向けて行かせる)という、東の岸より勧める声です。

と同時に、西の岸からは、「なんぢ一心に正念にしてただちに來たれ、われよくなんぢを護らん」。そなたは一心に戸惑うことなく真っ直ぐに来るがよい。私がそなたを護ろう、という招き喚ぶ声が聞こえてきました。これは、大いなる慈悲の心をもって浄土へ來たれと招き喚ぶ阿弥陀仏の「悲心召喚」の声と記されています。こちらの岸からの「行きなさい、大丈夫だよ」と勧める声を、向こう岸からの「來なさい、必ず護ってあげるから」という招き喚ぶ声を信じて、その人は白い道を渡り始める、という喩え話です。

この喩え話に出てくるそれぞれは、何を示しているのでしょうか。一人の人を追いかけている盗賊や獣とは、私たちに迫ってくる様々な苦しみを表しています。私たちが持っている感覚器官からいろんなものを受け入れていく中で起こってくる、様々な精神的な在り様を示しているかもしれません。

水と火というのは、私たちが持っている欲望です。むさぼりや執着の心を水に、怒りや憎しみの心を火にたとえています。このような欲望や煩悩は一生消えることはないのです。

それら二河の間にある「四、五寸ほどの白い道」というのは、人のむさぼりや怒りの心の中に、清らかな信心がおこることをたとえたものです。

むさぼりや怒りの心は盛んであるから水や火にたとえ、信心のあり様はかすかであるから四、五寸ほどの白い道にたとえてあるのです。

「波が常に道に打ち寄せる」とは、むさぼりの心や怒りの心が常に起こって、信心を汚し、焼こうとする日頃の私たちの心の在り様をたとえたものです。

欲望や煩悩に常に覆われながらも、勧める声・招き喚ぶ声を信じ、白い道を歩み続けるならば、必ず彼岸に渡ることができるという世界を、この「二河白道」の喩えは表しています。

(浄土真宗本願寺派西蓮寺HP・西蓮寺だよりから)



第20回  
**善教寺秋のコンサート**

阿弥陀さまをバックに  
本堂いっぱい広がる音の世界

ひととき音楽の風に吹かれてみませんか！

サロンコンサート 11月10日(日)  
午後1時30分 開場 午後2時 開演  
参加費 3000円

福祉コンサート 11月11日(月)  
午後1時開場 午後1時30分 開演  
無料

チェロ: 秋津 智 承  
ピアノ: 鹿取 裕美子  
ピアノ: 福田 直 樹

コンサートのチラシとご案内をお送りするのが遅くなりました。  
小規模作業所で働く皆さんのために音楽を届けようと始まった福祉コンサート。その為の経費捻出と継続のため一般の方々にご協力をお願いする意味で開催したサロンコンサート。関わった人は変わりながらも20回を迎えました。演奏家の皆様、お手伝い下さった方々、ご参加の皆様  
に心から御礼申し上げます。あと3年、元気でおりましたら80歳まで何とか頑張りたいと思います。ご来場心よりお待ち申し上げます。雅亮

